

石川県防災総合訓練

平成 28 年 9 月 4 日、七尾市で（第 57 回）石川県防災総合訓練が行われました。七尾市は平成 19 年の能登半島地震で震度 6 強の揺れに見舞われ、127 人が負傷、家屋の全・半壊 272、一部損壊 6,473 と大きな被害を受けました。それだけに今回の訓練には過去最多の 102 機関が参加し、市内の能登歴史公園・山王小学校・矢田新第一埠頭・介護老人福祉施設などで市民約 9,000 人が、迅速な避難誘導や救助活動の訓練に取り組みました。

本会の赤十字奉仕団（日本赤十字社石川県支部）からは 8 名が参加。避難所となる山王小学校体育館に救護所を設置し、避難住民に対する救護ケア活動の訓練を行いました。

30 度を超えるサウナ状態の体育館の中で、汗だくになりながら包帯やラップを巻いてくれた負傷者役の子供たちを、視察にみえた谷本正憲県知事が姿を見た瞬間思わず笑みがこぼれ、本会スタッフの訓練説明の間もずっと笑顔で聞き入っておりました。

そのあと避難訓練に参加した小学校の児童たちに「痛いところはこうやって動かさないようにしたらいいよ」と、買い物袋を使った腕のつるし方や、身近にある物を使った捻挫・骨折等の手当てをわかりやすく実演したところ、興味を持った児童たちが次々と集まってきて、何度も何度も実演することとなり、やがて友達同士でお互いに包帯を巻き合う姿も見られました。

今回、一般の方々の他に思いがけず児童たちに災害時の救護のやり方を理解してもらうことができ、赤十字奉仕団として、とても意義のあるボランティア活動になりました。

広報員 佐藤裕之



